

【多治見市】

校務DX計画

1 校務のDX化に向けた取組

本市では、令和2年度に児童生徒に対して、一人一台端末を整備すると同時に、市内の教職員にも一人一台端末を整備した。それに伴って、校務のDX化にも取り組んできた。「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の結果を見ると、「職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化をしているか。」では、完全にペーパーレス化71.4%。一部28.6%とほぼペーパーレス化されている。「教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか。」では、取り入れているが100%である。また、「保護者へのお便り・配布物を、クラウドサービスを用いて一斉配信しているか。」でも、全くしていないが0%である。このように、ペーパーレス化や情報共有の方法としてクラウドの活用が進んでいる。しかし、「保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けているか。」では、全くしていない52.4%。「保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っているか。」では、全くしていない85.7%と、保護者がクラウドサービスを活用する面ではまだ課題が見られる。

今後は、さらなる校務DX化に向けて、保護者の活用による業務の軽減に力を入れていく。

2 校務のDX化に向けた具体的な取組

・授業と校務で、アプリケーションの使い分け

本市では、授業では、「ロイロノート・スクール」。校務では、マイクロソフトの「Teams」と「校務支援システム(Te-Comp@ss)」。オンライン授業の配信は、「Teams」と、市で統一してアプリケーションを使い分けている。内容に関しては、右の表のとおりである。

・教職員間の資料をペーパーレス化

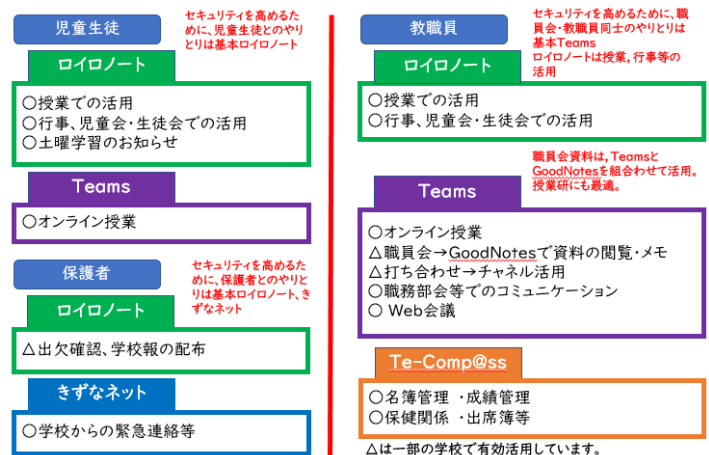
デジタルで作成した資料を、「Teams」でチャンネルを分けて管理。職員会議や研修会の資料を共有している。

・授業で使用する教材を共有

「ロイロノート・スクール」等で作成した資料は、ロイロノートのクラウドで保存。市内全教職員が参照可能なフォルダを作成し、データを格納することで、いつでも誰でも使用することが可能となっている。

・校務支援システム(Te-Comp@ss)で必要な情報を管理

名簿等の管理に加え、通知表も市内統一でシステムを活用しているため、市内の異動があってもストレスなく業務にあたることが可能である。



- ・欠席、遅刻連絡

「ロイロノート・スクール」を活用して保護者のスマートフォンから連絡してもらっている。

- ・配布物等の一斉配信

「きずなネット」を使用し、市内全保護者や児童生徒に向けて一括配信が可能である。

- ・体力測定アプリ「アルファ」の活用

体力測定の結果を端末に直接入力することで、端末上で個人票が作成される。個人票のペーパーレス化につながっている。

- ・学校アンケート等でペーパーレス化

「マイクロソフトフォームズ」や、「ロイロノート・スクール」等を活用し、アンケートの配信、集計、分析をペーパーレスで行っている。

- ・教職員出退勤管理システム(ナビルカクロック)の活用

教職員の出退勤の時間を管理している。

- ・自動採点システムの活用

主に、中学校で活用が進んでいる。業務時間の大幅な短縮につながっている。

3 今後に向けて

校務における生成AIの活用に関しては、リーディングDXスクールのパイロット校の取組を参考にしつつ、どのような校務で活用していくのか積極的に検討していく。次世代の校務システムにおいては、岐阜県の教職員業務改善協議会に参加しながら、今後も県下統一システムを導入するために、具体的な導入時期を検討していく。ネットワーク環境に関しては、つながりにくい学校や時間帯があるなど、課題もあるため、ネットワーク保守業者と連携し対応していく。また、FAX利用や押印については、原則廃止に向け引き続き取り組む。

このように、今後も、クラウド環境を基盤とした教育活動や、教職員の校務での負担を軽減する等、全ての教育環境を適切に整備していく。